

〔明良洪範二十三〕五月元和元年七日、大坂落城ノ朝、神君德川家康ニハ、御持旗御長柄等ノ儀ハ、住吉邊

ヘ並ベラレヨト御下知有テ、茶色ノ御羽織ニシク、リノ御袴ヲ召レ、住吉ト城トノ間ニ、コレ有樟林ノ内ニ、山駕籠ニ召レ、御坐有テ御茶モ召上ラレ、略下

〔柳營秘鑑十〕比之宮様御婚禮之式

ニ享保十六亥年、伏見殿御息女比之宮様、大納言様德川家重江御婚儀に付、同年四月、關東御下向之

節、爲御迎上京之諸役人、并諸供奉之面々、路次之御行裝、略中

一御行列略中

黒緞組頭壹人

御山駕奥小人

御駕臺黒四人

黒緞八人

〔甲子夜話七十一〕沼津閣老野水上京トシテ發途ノ日、予松浦清ガ中ノ者見來テ、ソノ行列ヲ語ル、略中

略コソ候ノ老臣土方氏ハ、其父ヨリ權門ノ餘波ヲ蒙リタル者ニテ、此行モ、旅裝甚華奢ナル由、從

ヘタル山駕ハ、外ヲ天鷲絨ニテ包ミ、内ニ曲祿ノ體ナル者ヲ設ケ、精巧ヲ極メシトゾ、略中 從行ノ

駕籠ノ日覆ハ、何レモ羅紗羅背板ノ類ト見ユト、是亦見物セシ者ノ語リキ、

〔驛肝錄〕文政五午年伺濟之内

覺

一山駕籠壹挺

四人掛リ

但引戸に無之あをり之分は貳人掛り、引戸と申迄に而、あをりも同様之手輕き分は、見計ひ

三人掛り、

〔堀川後度狂歌集卷一〕志賀山越

陽記